

「父から学び、父を超える」



玉置 健太郎 (32 歳) Uターン
(西条市小松町)

1 就農の動機・理由

前職では、東京で別の仕事をしていましたが、都会の生活にも慣れず、30歳という節目に、新たなことにチャレンジしたいと思い、生まれ育った実家の農業を継ぐことにした。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和4年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(父) 女1人(母)	男2人 (本人、父) 女1人(母)	男2人 (本人、父) 女1人(母)
経営耕地	畑 19 a 樹園地 11 a 計 30 a	畑 19 a 樹園地 11 a 計 30 a	畑 27 a 樹園地 11 a 計 38 a
経営内容	メロン 19a ブドウ 11a	メロン 19a ブドウ 11a	メロン 27a ブドウ 11a

○農業用施設

ビニールハウス 13棟 3,000 m²
倉庫 2棟

○主要農業機械

トラクター 1台
管理機 4台
動力噴霧器 6台
エンジンポンプ 6台
水中ポンプ 3台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県西条市小松町
職歴 中小企業メーカー
営業8年勤務
就農年月 令和4年9月

(2) 就農時の思い

農業は厳しいという話をよく聞いていたので、生活出来るか不安だったが、生まれ育った地で、両親と農業を出来ることに喜びを覚え、今は前向きに取り組んでいる。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

メロン・ブドウの栽培技術は、父と一緒に作業しながら学んでいる。
また、愛媛県立農業大学校で「農業革新挑戦塾」や「農業機械士養成研修」、東予地方局主催の「就農初期農業者研修会」を受講した。

(2) 資金の準備

父の経営基盤があり、新たに確保する必要はなかった。

(3) 農地・住宅の確保

農地は親の農地を継承予定。住宅も実家に住んでいるので、確保には困らなかった。

(4) その他苦労したこと

これまで農業は体験程度であったこと、また祖父母が早くに亡くなった為、

父が農地や技術を十分継承出来てなかったことの苦労はあった。

5 農業経営の特徴

メロン（春作・秋作）、ブドウ（シャインマスカット）と、別の品目を栽培することでリスクを分散している。

「たまちゃん農園」のアムスメロンは、甘くて、口当たりもよく美味しいので、ぜひ手に取って欲しい。

6 これからの夢

9月に締結した家族経営協定では「家族が楽しく暮らしながら、ゆとりある農業を目指す」と目標を立てたが、一人でも経営が成り立つように頑張りたい。

また今後は、SNS等を活用して、自分自身の新規顧客を獲得したい。

7 成功したキーポイント

就農してから間がなく、成功したとは言えないが、様々な講座に参加し、情報を収集している。

就農とともに、家族経営協定を締結し、家族間の役割分担を明瞭にした。

また、認定農業者になることで、5年後の目標を明確にした。

8 就農を目指す方へのアドバイス

近年問題となっている高齢化や人口減少による耕作放棄地の増加、鳥獣被害の問題は、旧小松町でも顕著であり、農業は難しい業界ではあるが、自分で栽培したものを「美味しい」と言ってもらえた瞬間は一番の喜びである。

家族や地域の人々、研修会で出会った仲間、農業関係機関の人といい関係を保ち、自分が農業をやりやすい環境を作ることは大事。

一緒に頑張りましょう！

○ 指導機関からのひとこと

健太郎君、お父さんの久志さんとも非常に真面目で、研究熱心。何事にも徹底して取り組まれており、ほ場の様子や将来のビジョンもしっかりデータで管理出来ています。

今後、地域の中核的存在になり、地域農業の維持・発展に尽力されることを期待しています。

執筆機関

東予地方局地域農業育成室

電話番号 0898-68-6812



両親と家族協定締結



シャインマスカットの剪定